



第116号

2020(令和2)年4月8日発行
群馬県山岳連盟

〒371-0005 前橋市堀之下町494-2
女屋 等志方
TEL 027-269-4570
FAX 027-269-4583

編集発行人
群馬県山岳連盟編集委員会 岡安茂能
印刷所 朝日印刷工業(株)

祝日「山の日」記念事業 第35回群馬県民の日記念事業 第42回群馬県民登山大会報告

約8時間

Aコース

「稲包山」(二五九七・九m)
個人会員委員会

根岸 仁

《コース概要》 赤沢スキー場～赤沢峠～稲包山～ムタコ沢巡視路経由～赤沢スキー場
《行動時間》



ムタコ沢巡視路 (Aコース)



渡渉箇所 (Bコース)



倒木越え (Bコース)

令和元年十月二〇日(日)みなかみ町、稲包山、三国山を会場とした第四十二回群馬県民登山大会の開催にあたり、Aコース稲包山のチーフリーダーを担当させていただきました。

Aコースは一般参加者二十六名、CL、SL、行動役員六名、救助隊二名、岳連役員二名、総勢三十六名が参加しました。コースタ

イムは八時間と行動時間が長く、途中ハプニングもありましたが、行動役員、救助隊、本部役員の皆様方のご協力をいただき紅葉の稲包山を楽しむことができました。ありがとうございました。

大会一週間前の十二日夜から十三日未明に台風19号が東日本を通過、広範囲で大雨に見舞われ、県民登山大会のコースにも影響があった。

コース途中台風の影響で倒れた大木が登山道を塞いでいる。行動役員と救助隊とで補助ロープを張り直ぐ上の登山道まで直登する。その直後にも登山道が大きく崩れており安全のためフィックスロープを張り通過。赤沢峠を越え稲包山へ向かうが、山頂は寒気によるガスに覆われている。昼食を早め、山頂へ向かう前に日の当たる暖かな場所での休憩とした。

稲包山は寒く、山頂を踏み直ぐに下山する。急坂の下りで参加者一名が怖くて前に進まない。役員が付き添いサポートする。途中で下山時間が大きく遅れたため、不

調者收容のため車を本部へ要請したところ、全員乗車可能な台数を林道登山口まで準備していただき、参加者全員が明るいうちに赤沢スキー場へ到着した。
県民登山大会は参加者の体力・技術レベルも幅広く、初心者からベテランまで参加しています。集団登山の参加者全員を安全に引率するためにはコースの選定・エスケープルートの確保、本部と

の通信手段の確保を強く意識しなければならぬことを再認識しました。

Bコース

「三国山」(一六三六・三三三)

自然保護委員会

三 田 治 宣

《コース概要》 赤沢スキー場～法師温泉～上信越自然歩道～三国峠～三国山(往復)

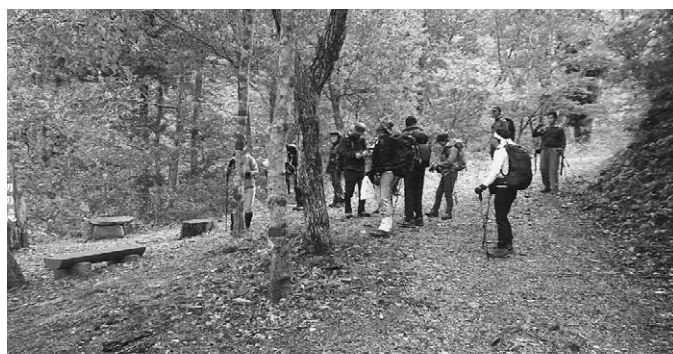
十月二十日天気曇り。一般参加



山頂にて

者六人に対してスタッフ九人、合計一五人となり、有事の際には手厚いフォローができる編成となりました。

コース前半は法師沢沿いの登山道を歩きます。いきなり本日の核心として、林道が川となっており、渡渉を余儀なくされました。靴が中まで濡れてしまいクレームが出るかと思いきや、ベテランの方ばかりでしたので不満も出ず、まずは一安心しました。自然歩道は下草刈り等整備をされていた道でしたが、台風の影響で倒木や土砂崩れが結構あ



自然歩道

*ふるさとの山に登ろう

り、通過に時間がかかりました。コース後半の三国トンネル脇からの登山道は良く踏み固められて順調に歩け、程なく三国山頂に着きました。

道中の天気は良くありませんでしたが、頂上での休憩中は晴れ間がのぞき、群馬の山々が一望出来ました。またスタッフがそれぞれ

レクチャーをしたりしました。登った甲斐があったので参加者の方には満足していただけたようでした。

また、会場から法師温泉まで車で送迎したので、舗装路歩きをしなくて済み、好印象だったと思います。

今回はA B両コースとも健脚向

けでした。さらに悪場通過の時間

ロスも結構ありました。時間配分を気にするあまり、幾らかハイペースに歩いてしまいました。が、全員無事に戻ってこれた大変うれしく思います。

また、清掃登山の結果としては、国道周辺以外は目立ったゴミもなく、きれいな山歩きでした。

二〇一九年個人会員委員会 第五回実技勉強会

「夏山の小屋泊」活動報告

個人会員委員会委員長 根 岸 仁

があり、ゲートが設置されている。

美濃戸口で軽いストレッチをして歩き出す。雲の無い快晴の天気。歩き出すとすぐに汗ばんでくる。

美濃戸口から約五〇分で美濃戸に到着。赤岳山荘の前で小休止。赤岳山荘で水をもらい、水筒に補給。茹でたモロコシが一〇〇円で販売されており「安い」の声。買ったモロコシをその場で食べ「甘い。おいしい」と茹でたての味を楽しむメンバーも。

今日のルートは水が豊富なので荷物が軽くて済む。新人スタッフの先導で美濃戸から北沢ルートで赤岳鉱泉へ。

堰堤広場までは林道歩き。堰堤

広場で一本入れ、その後は北沢に沿った登山道で緩やかな登り。気温も上がり真夏の様相。十一時過ぎに赤岳鉱泉に到着。冬場は赤岳鉱泉名物のアイスクライミング用設備「アイスクャンディ」で賑わっているが、夏の今は色とりどりのテントが広がり夏冬とも人気が高い山小屋だ。

赤岳鉱泉で昼食休憩を取る。この先は硫黄岳山荘まで水場が無いので、水を補給する。

昼食後出発。ここから先は下山者が増えてくる時間帯なので、グループを二つに分けて行動する。

山頂が近づき、傾斜もきつくなってくる。途中途中で主峰の赤岳や阿弥陀岳、横岳も目の前に広がってくる。今日は雲が上がることなく、赤岳が良く見える。

しばらく歩き樹林帯を抜ける。太陽を浴び日差しが眩しい。高度も上がり、暑さも上がり、すこしずつメンバーに遅れが始める。

途中休息を取り、水分補給と塩分補給を行い。ゆつくりのペースで歩き出す。

急登を登り続け、ほどなくして赤岩ノ頭に到着した。今日の赤岳方向の景色は最高だ。少し休んでいると突然ヘリコプターが赤岳の文三郎尾根付近でホバリングをしている。ヘリは一旦上空へ行くが、しばらくするとまた、文三郎尾根付近へ戻っていく。

事故が起こったのか心配し、同時に自分たちも気を引き締め山頂へ向かう。

(翌週長野県警察のHPに「9/7 文三郎尾根で41歳男性が下山中に足を滑らせ転倒」の記事あり)



東天狗へ向け

硫黄岳山頂へ到着。三六〇度の展望の素晴らしい景色を見て疲れも吹っ飛ぶ。

明日の天気が良いと確認がないため、山頂で時間を取り展望タイム。硫黄岳の爆裂火口も圧巻だ。展望タイムを終え、少し下り本日

の山小屋、硫黄岳山荘へ。硫黄岳山荘は水が豊富。シャワーがあり、トイレはウォッシュレット付きで、山小屋とは思えない充実ぶり。一八〇人収容の山小屋だが、今日は四〇人程度でゆったり。

各々寝る場所を確保した後はテラスで懇親会。山小屋の生ビール

や持ち込んだ酒類で歓談。夕食を取り、夕食後は昼間の暑さと歩き疲れのため七時には全員就眠。

夕食頃から発生したガスは十二時過ぎに霧雨になった。明日の天気は期待できないかとおもったが、三時頃にはガスが消えて星空になる。

翌朝、日の出の時間に合わせ起床。雲海から昇る太陽を拝む。二日目も快晴。朝食を済ませ、六時三〇分小屋を出発。

硫黄岳山頂で山座同定。三六〇度のパノラマで北アルプス、中央アルプス、南アルプスの山々が素晴らしい。今日は東天狗岳を超え、白駒池までの七時間程度の行程。硫黄岳山頂から今日行くべきルートを確認する。

硫黄岳から夏沢峠まではガレ場の下山、登りの登山者が多く、すれ違いにお互い道を譲りながら進む。夏沢峠は南八ヶ岳と北八ヶ岳の分岐点。様相も少しずつ変わってくる。

夏沢峠を越え樹林帯を登る。根石岳山荘の分岐を超え、白砂を登



硫黄岳山頂で記念写真

ると根石岳山頂へ。目の前の東天狗岳へ向かう。東天狗への道は浮石が多い岩場。一步一步慎重に登り東天狗岳へ。

東天狗岳から赤岳を見ると山頂付近にガスが出てきている。東天狗岳付近は好天だが、台風の影響で南方から少しずつ天気が崩れていく。下山までこの天気が持ちこたえてくれないかと祈り、中山峠へ急ぐ。

中山峠で昼食休憩。天気が気になり南方を何度も見る。硫黄岳もガスに覆われ始めた。

しばらく歩きニユウへ。ニユウの名の由来は様々あり地名語辞典では「二(丹)フ(生)」の転化で赤土や赤い色の地味、あるいは粘土質の土地、アルパインガイドでは「刈り取り後の稲を円柱形や円錐形に積み上げる稲わら」、また一説には遠くから見た山の姿が「乳に似ている」など諸説あるようだ。

ニユウを越え樹林帯を下る、南八ヶ岳の岩稜と対照的な北八ヶ岳の苔むす神秘的な自然に囲まれる。徐々に標高も下がり白駒池へ。何とか二日間の行程が雨に打たれずにすんだと思った直後にポツリポツリと雨が落ちてくる。少し速足で駐車場に向かい。間一髪、雨具を着ることなく全員無事に縦走を終える。

個人会員委員会では四月から「夏山装備」「登山計画の立て方」「ナビゲーション」「危急時の対応」の勉強会を実施してきた。今回のテーマ「夏山の小屋泊」は無雪期の一般的な登山コースを安全に楽しむための知識・技術を身につけることをテーマとして行った。

個人会員委員会は会員が安全で楽しい登山ができるよう活動を継続していく。

二〇一九年度

登山教室 実施報告

登山指導委員会 対比地昇

*8月11日は「山の日」です

令和元年度の登山教室も多数の講師の皆さんのご協力の下、無事終了した。

元号が改まったこともあり、登山教室の歴史を振り返ってみたいと思う。岳連行事を調べるのに頼りになるのは「山岳ぐんま」であ

るが、岳連HPで簡単に閲覧できるのはありがたい。山岳ぐんまにこの登山教室が初めて登場するのが平成七(一九九五)年度である。中高年の登山ブームが始まった頃で、次年度からしばらくは申込者が百人を超す状態が続き、どのよ

うに運営するか大変だった様子うかがえる。現在のように座学三日、実技二日となつて定着したのが平成九(一九九七)年度からである。座学も読図だけでなく、山の天気・気象、天気図、登山と健康、テーピング、キネシオテープ、救急法など多岐にわたり、登山実技の山域も年度毎に検討し、変化を持たせていた。数年に一度は小屋泊での実技も取り入れ、講師陣の労をいとわない姿勢には頭が下がる。記事にたびたび登場する言葉が「安全で楽しい登山のための

基本的な知識と技術の習得を目指す」という登山教室の目的である。いつもこの原点に立ち返り、群馬岳連の果たすべき役割を真剣に考えていた様子が伝わってくる。今年度で二十四年目となるが、先輩方が築いてくれたものを大事にしつつ、発展させていかなければならないとあらためて感じた。

今年度の登山教室は参加者三十四人で、ほとんどが初参加者である。毎年十人程度が個人委員会に入会しているが、登山教室参加者の次の受け皿としての役割を担って

参加者34人(男20、女14) 講師17人

回数	実施日	内 容	参加	講師
1	9/4(水)	開講式 座学① 「ナビゲーション技術1(地形図の基礎とその利用)田中」	34	14
2	9/10(火)	座学② 「ナビゲーション技術2(地図とコンパスの利用、GPS・スマホの利用)対比地」	34	13
3	9/14(土)	登山実技「赤城山」 1班(見晴山、地藏岳)、2班(薬師、陣笠)、3班(長七郎、地藏岳)	32	10
4	9/28(土)	登山実技「赤城山」 1班(薬師、陣笠)、2班(長七郎、地藏岳)、3班(見晴山、地藏岳)	28	9
5	9/30(月)	座学③ 「登山計画書 手島」 座学④ 「自然保護 小池」 閉講式	34	12
皆勤(修了証)			27	
特別講習	2/29(土)	登山実技(スノーシュー) 「玉原湿原周辺」	申込17	

参加者数の推移

年 度	参加数
H7	1995 42
H8	1996 80
H9	1997 100
H10	1998 77
H11	1999
H12	2000 44
H13	2001 98
H14	2002 52

H24	2012	28
H25	2013	42
H26	2014	24
H27	2015	25
H28	2016	38
H29	2017	43
H30	2018	44
R1	2019	34

H15	2003	61
H16	2004	58
H17	2005	42
H18	2006	38
H19	2007	29
H20	2008	25
H21	2009	35
H22	2010	29
H23	2011	38



座学「ナビゲーション技術2(地図とコンパスの利用)」

二十年以上にわたって実施してきたこの登山教室で共通するのは、参加者の感想に励まされるということである。「地形図の見方、コンパスの使い方などができるようになって山に行くのが楽しみです」「自然保護の座学でのトイレ問題、私は持ち帰ることに決めました。装備品内に入れます。保険に関しても早急に入りたいと思います。登山計画をしつかり立て、情報収集に力を入れたと思います」などの感想文が私たち講師陣の励みとなり、やる気の元となっていることは間違いない。また来年度も頑張りたいと思う。

アンケートの結果

(回答 37人)

①参加者の男女数、年齢構成、この登山教室の参加経験。

男	20
女	14
～30	2
31～40	5
41～50	5
51～60	9
61～70	12
71～	1
初めて	31
あり	3

②登山を始めて何年ぐらいですか。また、1年に何回くらい登山に出かけますか。

0～2年	14
3～4年	6
5～6年	7
7～10年	3
11～15年	1
16～20年	1
21年～	0

0～5回	17
6～10回	6
11～15回	4
16～20回	4
21～30回	0
31回～	1

③小屋泊の経験は

あり	16
なし	18

あり	3
なし	30

⑤参加した理由は何か？

仲間に誘われて	3
仲間を見つけるため	5
登山の知識を増やしたかったから	30
登山の技術を習得したかったから	26
情報交換のため	1
もっと理解を深めたかったから	9
その他	0

高い(希望額円)	0
適額	29
安い	5

⑥参加費は5千円は

(1)座学①「ナビゲーション技術1(地形図の基礎とその利用)」

理解できた	14
少し理解できた	17
あまり理解できなかった	2
今後の登山に役立つ	27
少し役立つ	4
あまり役立たない	0
少し役立つ	12
あまり役立たない	3

(4)実技「赤城山2回目」

理解できた	23
少し理解できた	5
あまり理解できなかった	0
今後の登山に役立つ	24
少し役立つ	1
あまり役立たない	0
あまり役立たない	0

(2)座学②「ナビゲーション技術2(地図とコンパスの利用、GPS・スマホの利用)」

理解できた	13
少し理解できた	14
あまり理解できなかった	7
今後の登山に役立つ	26
少し役立つ	4
あまり役立たない	1

(5)座学③「登山計画書」

理解できた	16
少し理解できた	13
あまり理解できなかった	2
今後の登山に役立つ	20
少し役立つ	6
あまり役立たない	0
少し役立つ	10
あまり役立たない	0

(3)実技「赤城山1回目」

理解できた	19
少し理解できた	13
あまり理解できなかった	0
今後の登山に役立つ	24
少し役立つ	5
あまり役立たない	0

座学④「自然保護」

理解できた	22
少し理解できた	7
あまり理解できなかった	0
今後の登山に役立つ	24
少し役立つ	3
あまり役立たない	0
少し役立つ	1
あまり役立たない	0

⑦各回の講習はどうでしたか？



実技「コンパスで進行方向をつかむ」(赤城山)

(1) 楽しかった	33
少し楽しかった	1
あまり楽しくなかった	0
(2) 今後の登山に役立つ	32
少し役立つ	2
あまり役立たない	0
(3) 期待通りだった	30
少し期待はずれだった	1
期待はずれだった	1

⑨全体を通して、今回の登山教室に参加してみたいか？

(1)座学	
読図	17
山の天候と天気図	21
山での危険の回避	23
山での応急処置	17
服装・装備	13
歩行技術	20
行動計画	11
食糧計画	8
生活技術	4
その他	1

(2)実技

無雪期のテント泊山行	18
無雪期の小屋泊山行	19
縦走路でのロープワーク	16
岩登り	10
沢登り	7
雪山登山	6
その他	0

⑧登山教室のテーマとして興味のあるものは？(複数回答可)

⑩感想・意見など(抜粋)

- 2回の赤城山実技に参加することによって座学で学んだことが納得できました。(コンパスの使い方等) 山を歩く上で地図から得られる情報がたくさんあることが分かりました。初めて知ったこともたくさんありました。(ピークから尾根をさがすこと、尾根と尾根の間が沢であること、ピークとピークの間がコルであること、等高線のこと、磁北線の引き方・・・) 何度同じ質問をしても熱心に教えていただき感謝です。GPSを利用した自分の位置の把握の仕方も教えていただけたら良かったと思います。
- 地形図の見方、コンパスの使い方などができるようになって山に行くのが楽しみです。
- 自然保護について普段は気にしていなかったが、今回の座学を聞いて自然保護について勉強になりました。
- ありがとうございました。とても親切に教えていただき、より安全に山行できそうです。装備も参考になりました。
- 講師の方には丁寧に詳しく指導していただきありがとうございました。コンパスの使い方、地図の読み方などを教えていただいたので、コンパス、地図を持って赤城山の登山道を全部歩きたいです。
- 今回の登山教室はとても充実したものになりました。これを機にもっと登山についての知識を深めて今後の登山に役立てたいと思います。まだまだ、山については知りたいことがたくさんあります。
- 今回やっと登山についてのスタートラインに立ったように思っています。これからの登山ライフが楽しみです。
- とても楽しく学ぶことができました。座学3回、実技2回と計5回でしたが、もっと学びたいと思いました。本や雑誌、インターネットからの情報だけでなく、山岳会のメンバーの方の生の情報はとても楽しく勉強になりました。ふりかけ袋のアイデアは本には載ってなかったです(笑)。初心者を引き率する登山はとても大変だと思いますが、また一緒に登らせてもらいたいです。大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 若いときに経験した山登りから数十年が経ち、3年ほど前から再度山登りを再開しました。夫婦で近くの山を歩くことから始め、群馬県周辺の山々を月に1度ぐらいのペースで回っていましたが、徐々に難易度を上げるに従い、登山への知識や技術の不足を痛感していました。今回の登山教室に参加し、知識や技術を学ぶことができ、これからの登山の楽しみ方がますます増えそうです。ありがとうございました。

雪山レスキュー講習会に

参加して

沼田山岳会 松 原 美成子

*山岳保険は必携登山装備です



ゾンテレーンの学習

令和二年二月八日、九日に土合山の家にて、雪山レスキュー講習会が行われました。参加者は十五名で群馬県山岳連盟、山梨県、埼玉県、また高校生の参加もありました。

講習の一日目は座学中心で、雪崩のしくみ、雪崩発生後の一連の動き、ビーコンの種類や特性、基本操作、搬送とパッケージング、夕食後に低体温について学びました。



低体温症防止のためのパッケージング

実会場 みなかみ町藤原 雨呼山
期 日 二〇二〇年二月一日
参加者 八名
暖冬の今シーズンである。スキー場や各地の山岳でも雪不足が深刻であったが、本研修が行われる雨呼山も、下見の段階ではようやく10秒を超える程度の積雪しか無く、予定した研修プログラムを修了できるか危惧される状況であった。

しかし、参加者や事務局の願いが天に通じたのか、前日までに恵みの降雪があり、なんとか開催の運びとなった。いやはや、さながら雨呼山ならぬ「雪呼山」である。



群馬県山岳連自然保護委員会

令和元年度 研修会報告

自然保護委員会 清水 知 樹

ミュレーションの動画を見ながら、ビーコンによる捜索手順の確認、また、チームレスキュー時のコマンド（リーダー）の指示の仕方なども確認しました。もし現場でコマンドになった場合、一分一秒と早急な救助活動が求められる現場での冷静で的確な対応をするには、先ずはしっかりと手順を頭に入れておくことが大切であり、更に、訓練などの経験の積み重ねが重要だと感じました。

ビーコンの特性では、メーカーごとの違いや、同メーカーのビーコンであっても個体ごとに周期や電波発信の幅がランダム化されており、それにより複数埋没でも個々の埋没を識別していることを実際の電波音（パルス音）を聞くことによりわかりました。

二日目は屋外でのビーコンを使つてのアバランチトレーニング、掘り出し（V字コンベア）、ピットとスノーマウンツのシミュレーションを行いしました。また、実際に講師の方を半身埋めてプローブで突いた感触を確認しました。

前夜からの降雪と時折吹雪が起る中での捜索訓練でしたが、実際の現場でも想定されるというところで真剣に取り組みました。

昨今の気候変動にともない、雪崩はいつでもどこでも起こることを頭に入れ、自分の命、家で待つ家族の命、仲間の命を守る為にも、今後も更に知識を深めて安全に雪山を楽しみたいと思っております。

主任講師の町田さん、講師の櫻澤さん、毛呂さん、二日間にわたる大変お世話になりました。

『雨呼山の由来』

山間の田畑に日照りが続けば、山の水が枯れて作物は、全滅の被害を受けてしまう。

藤原の人々はこの災難を避けるために、村の中央にあるこの「雨呼山」に登り大きな声で天に向かって雨を呼んだ。

時には、麓の山寺（應永寺）より、太鼓を担ぎ出して山に登って叩き雷神の雲を呼んだ。

やがて、照り輝く青空も一天俄かに様々曇り雷鳴とともに雨が降りだしたのであった。

秘境の地藤原村は、五穀豊穡平穏無事の生活が出来たのである。

また、ある時、麓の山寺（應永寺）の本堂にあった彫刻の「龍」が、夜中に寺を抜け出し、寺山からこの雨呼山に登り、山頂の三つ岩山であばれた、その為には大嵐となり、大水により山津波が起き、村や田畑をうめってしまった。

困り果てた村人たちは、寺で眠っている龍を縛り縛り上げ、寺の本堂に吊るしてしまった。今も、應永寺に伝わる伝説で縛られ龍は、本堂天井に吊るされていていると云う。

水 な か み 町
藤 原 区

雨呼山の由来

な声で雨を呼んだ。またある時には、麓の山寺（應永寺）から担ぎ出した大太鼓を打ち鳴らして雷神の雲を呼んだところ雨が降り、五穀豊穡の暮らしができたとの謂れ。

二つ目は、前の言い伝えと同じ應永寺にあった彫刻の龍が夜中に抜け出して、山頂の三つ岩山で暴



出発前のビーコンチェック



傾斜地における危険判断講習

れたため嵐となり、山津波が起こって村や田畑を埋めつくしたのを困った村人が、寺で眠っている龍を縛り縛りあげて、これを鎮めた。その龍は今でも本堂に吊るされている。という言い伝え。

かつてこの藤原に生活の場を求めて根差した人々が、農耕の安定のために降雨を欲したこと。しかしながらこの山間部のこと、大雨が降れば実際に生活を脅かす災害の発生を恐れ、彫刻の龍を縛ることで封じようと考えたことなど、この地に暮らした民の自然に対する畏敬の念がうかがわれる話である。

話を研修会に戻そう。



コンプレッションテスト

団体行動時等における危険個所を避けた休憩場所選定の要点を説明。講師は小池委員（以下同じ）。

続いて積雪断面の観察を行う。この日は降雪時期の違いによる三層の雪質が確認され、シャベルコンプレッションテストでは概ね安定しているとの判定を得た。また経験豊富な参加者からは、以前自身が立つ斜面の下方で「すべり」が発生して、そのままほぼ真下に数メートル落下したことがある、などの体験談も聞かれた。

やや傾斜の急なこの斜面を利用

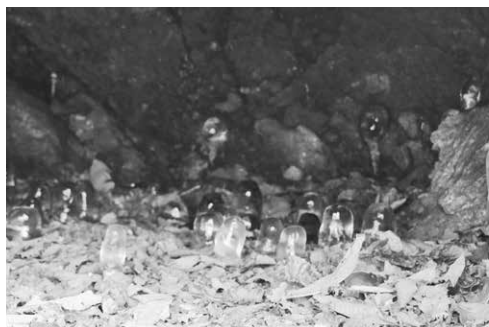
恵みの降雪により、積雪量は深いところでおおよそ50cm程だろう。歩くには頃合いの状況となってくれた。入山口でスノーシューを装着し、ビーコンチェックを行って、ノートレースのルート歩き出す。

無雪期なら、ものの十五分で頂上へ到達してしまうため要所で研修を入れながらの進行である。

まず歩き始めから五分ほどの斜面を選び、雪崩の発生しやすい地形の説明と、



ラッセルワーク訓練



氷筍



帰路に



ツェルト・ビバーク講習

のパワーに圧倒される場面であった。ひと汗かいたところで、尾根まで登りあげた。折よく吹き溜まり状の場所があったので、積雪面を大きく切り開いてツェルトを利用したビバークの手法や、風を避ける体勢についての説明が行われ、研修のプログラムは滞りなく終了した。

して、そのままラッセルワークの訓練へ移行。前方の雪を掻き崩し、膝で固めて足を前へ踏み出す基本動作を確認したが、先行する元氣な女性陣に対し、追隨するベテラン勢という図式となり、女性たち

参加者個々人の差異はあれ、いずれも承知している内容ではあったが、改めて知識の棚卸を行う意義は大きかったと思うのである。以後は、そのまま山頂へ向かう。



研修会参加者

尾根を快適に歩けば、山頂はすぐそこ。快晴とはいかなかったが、九〇〇mほどの山であることを思えばまずまずの景観を眺めたのち、次なる議論の場所へ向けて帰路についたのである。

ても良いのだが、少しルートをとれたところにある洞窟へ立ち寄り、氷筍を愛でることにする。例年ならば大きく成長しているのだろうが、まだ成長過程であった。

令和元年度 関東地区山岳連盟総会 開催される

編集委員会 岡 安 茂 能

期日 令和二年二月一・二日

会場 リソル生命の森

(千葉県長生郡長柄町上野)

出席 埼玉10、茨城6、東京4、

群馬6、千葉8、栃木3、

山梨4、神奈川5。

始めに各専門委員会委員長等による分科会を行ない、その報告を皮切りに全体会議を行なうという恒例のプログラムで開催された。

(1)指導委・遭難対策委 夏山リーダー講習会の開催状況、一般登山者の遭難事故への対応、ココヘリ利用、行政への働きかけの必要について話し合われた。

(2)ジュニア・普及委 親子登山教室の開催状況について報告され、担当スタッフの指導員資格も指摘された。

(3)自然保護委 太陽光・水力発電の積極利用の提起やトイレ問題について話し合われた。

(4)国際委 情報交換や学習会の拡充について話し合われた。

(5)総務委・事務局 岳連の法人化・名称変更の

進捗状況について報告が行われ、全国に先駆けて二〇〇六(平成十八)年社団法人化を行なった都岳連から社会的信頼度が高まって寄付を募っているなどの紹介があったが、他方運営担当者・会計処理など課題も指摘されて各県にかなりの温度差があることが明かされた。

全体会議では、先ず各岳連からの協議課題・聴取事項について話し合われた。

(1)JMSCA創立60周年記念事業募金について、寄付金額は各岳連一任とする。

(2)関東地区トレラン協会の組織について現状が報告された。

(3)関東地区山岳連盟の役員名簿について、各都県総会後、7都県事務局にデータを送ることを承認。

(4)関東小中学生スポーツクライミング選手権大会(12月山梨市)の開催要領について、開催都県に一任することを承認。

(5)個人会員加入の基準について、

班	参加	コース	講 師
1 班	3 人	B コース	○長田 厚実 清水裕美子 山越 稔雄
2 班	3 人	A コース	○高橋 守男 佐藤 洋志 森田 治樹 細野 義法
3 班	3 人	C コース	○対比地 昇 沼居 義 角田二三男 武藤チエミ

二〇二〇年二月二十九日、「登山教室スノーシュー講習」を玉原湿原周辺にて行った。

近年は参加希望者も増え、秋に募集した段階では十七人の申込があった。例年、仕事の都合などで数人の辞退者がいるが、今回は状

令和元年度登山教室

スノーシュー講習実施報告

登山指導委員会 対比地 昇

入会金・年会費等が報告された。

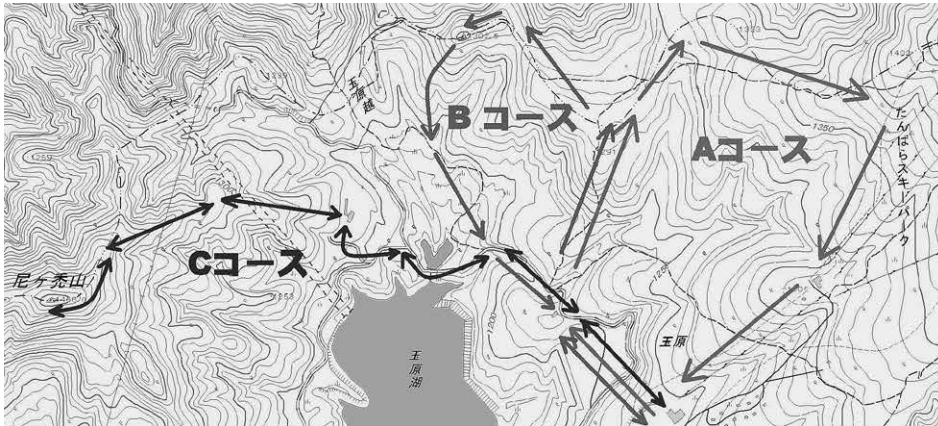
次いで、関東地区小中学生クラ

イミング選手権大会の報告(埼玉)

と国体関東ブロック大会(6/20・21)実施要項の説明(神奈川)

があった後、国体関東ブロック大会の競技順の抽選が行われた。その後、千葉県から神奈川県に、岳連会長の引継ぎが行なわれ総会を終了した。

会場リソル生命の森は、ゴルフ場・レストラン・会議室等を備えた複合リゾート施設で、宿舎にログハウス風のコテージが充てられ好評であった。



3班集合写真 尼ヶ禿山

況ががらりと変わった。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い国の対応が急転し、実施直前に参加辞退の申し出がたくさん出た。最終的に参加者は九人と半減し、対応に苦慮したが、講師は当初の予定通り十一人に参加してもらい、各



2班集合写真 玉原スキー

班に生徒三人、講師三、四人という恵まれた体制での実施となった。

快晴、ほぼ無風という気象条件にも恵まれた、前日に約二十cmの積雪があり、真っ白な雪面を歩くことができ、雪上歩行を充分に楽しめる講習会となった。

以下、今回の特徴を三つに分けてまとめる。

①記録的に少ない積雪量

昨年も積雪は少なかったが、今年はそれよりもさらに1m以上は少なかった。沢状地形のところは水が流れているところが多くあり、危険回避のため尾根だけのコースを選択した。また、笹や低木の枝

が顔を出し、歩きにくい状況であった。

②新型コロナウイルス

前述したとおり、参加者が半減したということもあるが、いろいろな催し物が中止となる状況の中で、講習そのものを実施していかどうか判断に迷った。理事長や指導委員長にも意見を伺いながらの判断となった。

③講師新メンバー

今年度新たに指導員の資格を取得した三人の方に講師として参加してもらった。この内二人は女性で、今後の活躍に期待したいところである。



スノーシュー登り歩行



株式会社エーアールアイ
東京都練馬区上石神井 3-18-1
TEL 03-5991-4638

弱電工事承ります。
電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ(LAN 及び Wi-Fi 環境)、
TV アンテナ及びケーブル工事
パソコンで悩んでいませんか?
ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。
(難しい故障の場合は外注となります。)

ミヤマネットワーク

代表 佐藤 光 由
群馬県前橋市高花台 1-6-5
電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026